

本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第1章 ご購入後の操作

お買い求めいただいたワークステーションを使えるようにするための操作を説明しています。必ず、本書の手順に従って操作してください。

第2章 快適にお使いいただくために

コンピュータウイルスや画面の設定方法などについて説明しています。

第3章 リカバリとインストール

本ワークステーションを新規で OS をインストールした状態にする「リカバリ」とソフトウェアの「インストール」について説明しています。

第4章 困ったときに

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

第5章 技術情報

お使いになるうえでの留意事項を説明しています。

目次

本書をお読みになる前に	4
お問い合わせ一覧	4
本書の表記	5
第1章 ご購入後の操作	
1 セットアップ	8
Windows 2000 セットアップ	8
ネットワークの設定	11
2 バックアップ	13
ドライバのバックアップ	13
3 プレインストール仕様	14
ソフトウェア一覧	14
ドライブ構成	16
アプリケーションのアンインストール	17
第2章 快適にお使いいただくために	
1 コンピュータウイルス対策	20
VirusScan	20
コンピュータウイルスを発見した場合	21
コンピュータウイルスの被害届け	21
2 画面を設定する	22
3 Power MANagement for Windows	23
PMAN の機能	23
第3章 リカバリとインストール	
1 リカバリ概要	26
リカバリの概要	26
留意事項	26
2 リカバリ操作	27
リカバリ前の準備	27
リカバリ方法	27
リカバリ終了後	29
3 ソフトウェアのインストール	30
ドライバのインストール	30
プレインストールソフトのインストール	39
添付ソフトのインストール	41

第4章 困ったときに

1 こんなときには	44
トラブル発生時の参照先	44
トラブルシューティング	44
Windows 2000 に関する Q&A	47
2 それでも解決できないときは	50
お問い合わせ前の確認シート	51

第5章 技術情報

1 その他の留意事項	54
------------------	----

索引	63
----------	----

本書をお読みになる前に

お問い合わせ一覧

本ワークステーションに添付されているソフトウェアの内容については、次の連絡先にお問い合わせください。なお、記載の情報は、2001年10月現在のものです。電話番号などが変更されている場合は、担当営業員または担当保守員までお問い合わせください。

- はじめよう！インターネット (@nifty)
 - ・ 入会 / @nifty サービス全般
ニフティ株式会社 @nifty サービスセンター
9:00 ~ 21:00 (指定の休日を除く)
電話 : 0120-816-042
(携帯・PHS・海外の場合 : 03-5444-2902)
E-mail : feedback@nifty.com
URL : <http://www.nifty.com/support/madoguchi/index.htm>
 - ・ パスワード再発行 / 各種手続き / 解約
ニフティ株式会社 @nifty カスタマーセンター
9:00 ~ 21:00 (指定の休日を除く)
電話 : 0120-842-210
(携帯・PHS・海外の場合 : 03-5471-5806)
E-mail : feedback@nifty.com
- VirusScan Ver.4.5.1
日本ネットワークアソシエイツ株式会社
テクニカルサポートセンター
9:00 ~ 12:00, 13:00 ~ 17:00 (土日、祝祭日を除く)
電話 : 03-3379-7770
URL : <http://www.nai.com/japan/>
- Adobe Acrobat Reader 5.0
ソフトウェア提供会社様より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。
ご了承ください。

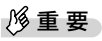

本ソフトウェア製品の中には第三者のソフトウェア製品が含まれています。お客様の本ソフトウェア製品の使用開始については、お客様が弊社の「ご使用条件」に同意された時点とし、第三者のソフトウェア製品についても同時に使用開始とさせていただきます。

なお、第三者のソフトウェアについては、製品の中に特に記載された契約条件がある場合には、その契約条件にしたがい取り扱われるものとします。

本書の表記

本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

画面例

本書に記載されている画面は一例です。実際に表示されるウィンドウやファイル名などとは異なる場合があります。ご了承ください。

コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
           ↑ ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キー（キーボード手前中央にある何も書かれていない横長のキー）を1回押してください。
- コマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブ、CD-R/RW ドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] と表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

```
[CD-ROM ドライブ]:%setup.exe
```

連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「-」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。

例：「メイン」メニューの「フロッピーディスク A」の項目を「使用しない」に設定します。

↓
「メイン」 - 「フロッピーディスク A」：使用しない

お問い合わせ先 / URL

本文中に記載されているお問い合わせ先や WWW の URL は 2001 年 10 月現在のものです。変更されている場合は、担当営業員または担当保守員までお問い合わせください。

製品の呼びかた

本書に記載されている製品名称を、次のように略して表記します。

Microsoft® Windows® 2000 Professional を、Windows 2000 と表記しています。

Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0 を、Windows NT 4.0 または Windows NT と表記しています。

Microsoft® MS-DOS® operating system を、MS-DOS と表記しています。

VirusScan Ver.4.5.1 を、VirusScan と表記しています。

Power Management for Windows を、PMAN と表記しています。

Adobe® Acrobat® Reader 5.0 を、Acrobat Reader と表記しています。

機種名表記

本文中の機種名表記は、次のようになっています。機種名を確認してください。

機種名	本文中表記		
CELSIUS 670	CELSIUS 670	[C670]	本ワークステーション ワークステーション本体
CELSIUS 670 U160W-SCSI モデル	CELSIUS 670 U160W		

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

VirusScan は、米国 Network Associates 社及び関連会社の商標又は登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2001

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

第 1 章

ご購入後の操作

お買い求めいただいたワークステーションを使用できるようにするための操作を説明しています。必ず、本書の手順に従って操作してください。

1	セットアップ	8
2	バックアップ	13
3	プレインストール仕様	14

1 セットアップ

初めて電源を入れたあとに行う Windows 2000 の初期設定（Windows 2000 セットアップ）について説明します。必ず、本書の手順に従って操作してください。

Windows 2000 セットアップ

次の「留意事項」をよくお読みになり、電源を入れて Windows 2000 セットアップを始めます。

留意事項

- Windows 2000 セットアップを行う前に、オプションを取り付けしないでください（カスタムメイドオプションを除く）。
Windows 2000 セットアップを行う前にオプションを取り付けると、Windows 2000 セットアップが正常に行われず場合があります。
- セットアップが終了するまで、LAN ケーブルを接続しないでください。LAN ケーブルを接続してセットアップを行うと、エラーメッセージが表示される場合があります。
- Windows 2000 セットアップ時に音が鳴るので、スピーカーを接続している場合はボリュームを調整してください。
- Windows 2000 セットアップの各ダイアログボックスが完全に表示されないうちにキーを押すと、Windows 2000 セットアップが正常に行われず場合があります。ダイアログボックスが完全に表示されたから、マウスで操作してください。
- 電源を入れたあと、画面が中央に表示されない場合は、ディスプレイの設定機能を使用して調整してください。

セットアップ

POINT

- ▶ Windows 2000 セットアップ中に、「Windows 2000 Professional CD-ROM 上のファイル 'xxxxx.xxx' が必要です。」というメッセージが表示されることがあります (xxxxx.xxx には courf.fon などのファイル名が入ります)。この場合、「コピー元」に「C:¥SUPPORT ¥1386」と入力し、「OK」をクリックして、セットアップを進めてください。
セットアップが完了したら、次の手順に従って Windows 2000 Service Pack2 をインストールしてください。
 - 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
 - 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
 - 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
C:¥support¥sp¥w2ksp2.exe
 - 4 「使用許諾」をよく読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。
以降、メッセージに従ってインストールを完了してください。

1 本ワークステーションの電源を入れます。

しばらくすると、「Windows 2000 Professional セットアップウィザードの開始」が表示されます。

2 「次へ」をクリックします。

「ライセンス契約」が表示されます。

「使用許諾契約書」は、本ワークステーションにあらかじめインストールされている Windows 2000 を使用する上での契約を記述したものです。

3 「使用許諾契約書」をよく読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。**POINT**

- ▶ 「同意しません」を選択した場合は、「次へ」をクリックしたあと、メッセージに従って操作してください。

「ソフトウェアの個人用設定」が表示されます。

4 「名前」と「組織名」を入力し、「次へ」をクリックします。

「コンピュータ名と Administrator のパスワード」が表示されます。

リカバリ後のセットアップの場合は、「プロダクトキー」が表示されます。ワークステーション本体側面に貼付のシールに記載されているプロダクトキーを入力し、「次へ」をクリックします。

5 「コンピュータ名」、「Administrator のパスワード」と「パスワードの確認入力」を入力し、「次へ」をクリックします。

「ネットワークの設定」が表示されます。

ネットワークの設定については、セットアップ完了後にネットワーク管理者に確認し、ご使用の環境に合わせて設定してください（→ P.11）。

リカバリ後のセットアップの場合は、「日付と時刻の設定」が表示されます。

- 1 内容を確認してから、「次へ」をクリックします。
- 2 CD-ROM が要求されたら、「CELSIUS 用 Windows 2000 リカバリ CD」をセットし、「OK」をクリックします。
「Windows 2000 セットアップウィザードの完了」が表示されます。
- 3 手順 8 に進みます。

6 「標準設定」をクリックし、「次へ」をクリックします。**POINT**

- ▶ 「標準設定」では、次のネットワークコンポーネントがインストールされます。
 - Microsoft ネットワーク用クライアント
 - Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有
 - インターネットプロトコル (TCP/IP)

「ワークグループまたはドメイン名」が表示されます。

- 7** 「このコンピュータはネットワーク上にないか、ドメインのないネットワークに接続している」をクリックし、「次へ」をクリックします。

「Windows 2000 セットアップウィザードの完了」が表示されます。

- 8** 「完了」をクリックします。

- 9** 「再起動する」をクリックするか、または 15 秒待つと本ワークステーションが再起動します。

重要

- ▶ 「ネットワーク識別ウィザード」ダイアログボックスが表示されたとき、「戻る」をクリックしないでください。
再設定が必要な場合は、設定終了後に該当箇所を修正してください。

「ネットワーク識別ウィザードの開始」が表示されます。

- 10** 「次へ」をクリックします。

「このコンピュータのユーザー」が表示されます。

- 11** 「常に次のユーザーがこのコンピュータに ...」をクリックし、手順 5 で入力したパスワードを入力し、「次へ」をクリックします。

「ネットワーク識別ウィザードの終了」が表示されます。

- 12** 「完了」をクリックします。

POINT

- ▶ ワークステーションでは、「Windows 2000 の紹介」ダイアログボックスにある「Windows について」をクリックすると、「ディスクカバーツアーが見つかりません」ダイアログボックスが表示されます。この場合は、「ディスクカバーツアーが見つかりません」ダイアログボックスで「c:\support\%discover」と入力するか、リカバリを行った場合には添付のリカバリ CD-ROM をセットして「[CD-ROM ドライブ]:%discover」と入力し、「OK」をクリックしてください。
- ▶ 仮想メモリの設定について
搭載しているメモリ容量が大きいなどの場合、仮想メモリに必要な容量が増加し、推奨する仮想メモリサイズが確保されない場合があります。推奨する仮想メモリの設定を行うには、ハードディスクに「最大サイズ」分の空き容量が必要です。ドライブに十分な空き容量がない場合は、別のドライブに設定を行ってください。

仮想メモリ	推奨値
初期サイズ	本体搭載メモリの 1.5 倍
最大サイズ	初期サイズの 2 倍

ただし、仮想メモリをブートボリューム以外へ設定する場合、あるいはページングファイルサイズが小さい場合などは、メモリダンプをファイルに出力できなくなります。ダンプファイルを取得する場合は、システムドライブに物理メモリ + 1MB（仮想メモリの容量は含まず）以上の容量が必要です。

- 仮想メモリの設定方法

1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

- 2 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 「詳細」タブの「パフォーマンス オプション」をクリックし、「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。「仮想メモリ」ダイアログボックスが表示されます。
- 4 ページングファイルが格納されているドライブを変更する場合は、「ドライブ」の一覧で変更するドライブをクリックします。システムドライブに十分な空き容量がある場合は、ドライブを変更する必要はありません。
- 5 「選択したドライブのページング ファイルのサイズ」の「初期サイズ」または「最大サイズ」を適切な値に変更し、「設定」をクリックします。
- 6 本ワークステーションを再起動します。

13 「スタート」ボタン→「シャットダウン」をクリックし、ワークステーションを再起動してください。

これで、Windows 2000 セットアップが完了しました。

ネットワークの設定

Windows 2000 セットアップ後に、お使いのネットワーク環境に合わせて、以降の手順に従って設定を行ってください。

ネットワークコンポーネントのインストール

POINT

- ▶ 使用するネットワークコンポーネントについては、ネットワーク管理者に確認してください。

- 1** 「マイネットワーク」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。「ネットワークとダイヤルアップ接続」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 3** 「インストール」をクリックします。「ネットワークコンポーネントの種類の選択」ダイアログボックスが表示されます。
- 4** 設定するネットワークコンポーネントを選択し、「追加」をクリックします。以降、メッセージに従って設定を行います。
- 5** インストール終了後、Windows 2000 Service Pack2 をインストールしてください (→ P.38)。

ネットワーク ID の設定

POINT

- ▶ 設定するネットワーク ID (コンピュータ名やドメイン名など) については、ネットワーク管理者に確認してください。

- 1** 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 2** 「ネットワーク ID」タブをクリックします。
- 3** 「ネットワーク ID」または「プロパティ」をクリックし、コンピュータ名やユーザー名の設定を行います。

2 バックアップ

ドライバのバックアップ

本ワークステーションに添付の「ドライバーズ CD」から、「バックアップディスク」を作成します。

「バックアップディスク」は、ドライバのインストールに使用します。

用意するもの

- ドライバーズ CD (添付されています)
- 1.44MB 2HD フロッピーディスク (表を確認し、必要な枚数を用意してください)

ソフトウェア名称	フロッピーディスクの枚数	入力するフォルダ名
QLogic 64bit U160 Onboard SCSI V7.14	1	Qlogic

バックアップ方法

- 1 「ドライバーズ CD」とフロッピーディスクをセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。
- 3 コマンドプロンプトから、次のように入力し、【Enter】キーを押します。
format a:
フォーマットが終了すると、ラベルの入力メッセージが表示されます。
- 4 【Enter】キーを押します。
- 5 【N】キーを押し、【Enter】キーを押します。
- 6 コマンドプロンプトから、次のように入力し、【Enter】キーを押します。
xcopy /s [CD-ROMドライブ]:¥W2k¥xxx¥*. * a:
xxxには、「バックアップの内容」の表のフォルダ名を入力します。
- 7 作成したバックアップディスクに、ソフトウェア名称を記入したラベルを貼り、書き込み禁止の状態にします。
ソフトウェア名称は「用意するもの」の表で作成したものを記入してください。

3 プレインストール仕様

Windows 2000 セットアップが終了した時点での本ワークステーションの環境は、次のとおりです。

POINT

- ▶ 各ドライバおよびソフトウェアの使用方法については、ヘルプまたは Readme.txt などの説明ファイルをご覧ください。

ソフトウェア一覧

プレインストールソフト

名称	備考
Microsoft Windows 2000 Professional (Service Pack2)	「C:\Winnt」フォルダにインストールされています。操作方法など詳細については、「スタート」メニューに登録されているヘルプか、添付されている『Microsoft® Windows® 2000 Professional クイックスタートガイド』をご覧ください。
Internet Explorer 5.01	WWW ブラウザです。
Microsoft IME 2000	日本語入力変換ユーティリティです。
DirectX8.0a	マルチメディアの機能を拡張します。DirectX8.0に対応したソフトウェアの高速表示・高品位音声再生を実現します。
Windows 環境調査ツール (FM Advisor)	本ワークステーションの使用環境を調査します。また、動作環境取得ツールとしても使用できます。
Acrobat Reader	PDF (Portable Document Format) 書類を表示、閲覧、印刷できます。
CodeRed ワーム対応修正モジュール	CodeRed ワームに対応したモジュールです。
光磁気ディスク・ユーティリティ	光磁気ディスクのフォーマットやフォーマット/イジェクト権限の変更を行うユーティリティです。

プレインストールソフトは、必要に応じてアンインストールしてください (→ P.17)。

添付ソフト（未インストール）

POINT

- ▶ 一部のソフトウェアの使用方法については、ヘルプまたは Readme.txt などの説明ファイルをご覧ください。

インストール方法は、「添付ソフトのインストール」（→ P.41）をご覧ください。

名称	備考
VirusScan	コンピュータウイルスを検出・駆除します（→ P.20）。
Power MANagement for Windows	本ワークステーションの電源を制御するソフトウェアです（→ P.23）。
FM-Menu	ボタン式メニューから簡単にアプリケーションを起動できます。また、特定キーの入力や Windows 機能を制限します。
はじめよう！インターネット (@nifty)	インターネットのプロバイダである @nifty への入会用ユーティリティです。

ドライブ構成

ドライブ	容量	備考
C	約 16GB	FAT32
D	[総容量] - [C ドライブの容量]	NTFS
E	CD-ROM または DVD-ROM ※、 CD-R/RW ※ドライブ	
F	光磁気ディスクドライブ※	

※：カスタムメイドオプション

POINT

- ▶ 各ファイルシステムにアクセスできる OS は、次の表のとおりです。

	Windows 2000	Windows NT 4.0		Windows98	Windows95 OSR2 以降
		Service Pack4 以降	Service Pack3 以前		
Windows 2000 の NTFS	○	○	×	×	×
Windows NT の NTFS	○	○	○	×	×
FAT32	○	×	×	○	○
FAT16	○	○	○	○	○

- ▶ ドライブの DMA を設定する方法は次のとおりです。
 - 1 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
 - 2 「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックします。
 - 3 「IDE ATA/ATAPI コントローラ」をダブルクリックします。
 - 4 「セカンダリ IDE チャンネル」または「プライマリ IDE チャンネル」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 - 5 「プライマリ（またはセカンダリ）IDE チャンネルのプロパティ」ダイアログボックスの「詳細設定」タブをクリックします。
 - 6 設定を変更し、「OK」をクリックします。
- ▶ DMA 転送をサポートしていないドライブを接続して、DMA を設定した場合、正常な動作が保証されません。

アプリケーションのアンインストール

留意事項

アプリケーションをアンインストールする場合は、次の点に気を付けてください。

- 起動中のアプリケーションをすべて終了してからアンインストールを始める
- DLL ファイルは削除しない

DLL ファイルを削除すると、他のアプリケーションが正常に動作しなくなることがあります。アプリケーションのマニュアル、ヘルプ、または **Readme.txt** などの説明ファイルで、特に指示がない場合は DLL ファイルは削除しないことをお勧めします。

アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する

アプリケーションにアンインストール機能が用意されている場合があります。

- 「アプリケーションの追加と削除」機能を使用する

「コントロールパネル」ウィンドウの「アプリケーションの追加と削除」機能を使用してアプリケーションを削除できます。

アンインストール方法はアプリケーションによって異なります。詳細は各アプリケーションのマニュアル、ヘルプ、または **Readme.txt** などの説明ファイルをご覧ください。

Memo

第 2 章

快適にお使いいただくために

コンピュータウイルスや画面の設定方法などについて説明しています。

1 コンピュータウイルス対策	20
2 画面を設定する	22
3 Power MANagement for Windows	23

1 コンピュータウイルス対策

コンピュータウイルスはプログラムの1つで、なんらかの方法でコンピュータ内に読み込まれる（感染する）と、コンピュータウイルス自身で増殖し、大切なデータを壊したり、コンピュータを起動できなくしたりといった悪影響を及ぼします。

VirusScan

本ワークステーションにはウイルスを発見するためのソフトとして、VirusScan が添付されています。入手したフロッピーディスクや光磁気ディスクなどは、ウイルスチェックを行ったうえで使用してください。VirusScan の使用方法については、ヘルプをご覧ください。

VirusScan はご購入時にはインストールされていません。必要に応じてインストールしてください（→ P.41）。

POINT

- ▶ 「VirusScan」を起動していると、アプリケーションを正常にインストールできなかったり、ご使用のアプリケーションによっては不具合が発生したりすることがあります。この場合は次のいずれかの方法で「VirusScan」を使用不可にしてください。
 - 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Network Associates」→「VirusScan コンソール」の順にクリックします。「VirusScan コンソール」ウィンドウで「VShield」をクリックし、「タスク」メニュー→「使用不可」の順にクリックします。
 - 「VirusScan」アイコンがタスクバーに表示されている場合は、そのアイコンを右クリックし、「使用可能」→「システムスキャン」の順にクリックし、チェックを外します。
- ▶ VirusScan でコンピュータウイルス検査を行っているときは、ハードディスクにあるプログラムを実行したり、検査中のフロッピーディスクを取り出ししたりしないでください。
- ▶ 本ワークステーションをフロッピーディスクから起動する場合、そのフロッピーディスクがコンピュータウイルスに感染していないかをチェックしてから使用してください。
- ▶ VirusScan は、コンピュータウイルスの情報を記載したデータファイル（DAT ファイル）と、検査プログラム（スキャンエンジン）を使用しています。DAT ファイルは次のサイトから無料でダウンロードできます。定期的に更新してください。
<http://www.nai.com/japan/>
スキャンエンジンを更新する場合は、最新版の VirusScan をご購入ください。

コンピュータウイルスを発見した場合

コンピュータウイルスを発見した場合は、被害届けを提出してください。

重要

- ▶ コンピュータウイルスに感染してしまい、本ワークステーションの修理が必要になった場合、保証期間内であっても有償修理になる場合があります。ご了承ください。

コンピュータウイルスの被害届け

コンピュータウイルスの届け出制度は、「コンピュータウイルス対策基準」（平成 12 年 12 月 28 日付通商産業省告示第 951 号）の規定に基づいています。コンピュータウイルスを発見した場合、コンピュータウイルス被害の拡大と再発を防ぐために必要な情報を、情報処理振興事業協会（IPA）セキュリティセンターに届け出ることとされています（<http://www.ipa.go.jp/security/>）。

2 画面を設定する

ここでは、Windows 2000 上で画面の設定を変更する方法について説明します。

POINT

- ▶ 設定できる色数は、画面の解像度によって異なります。解像度を大きくすると、設定できる色数は少なくなります。
- ▶ 解像度、色数の設定によっては、ディスプレイの調整が必要な場合があります。
- ▶ 画面の設定は、すべてのアプリケーションを終了させてから行ってください。
- ▶ お使いのディスプレイによっては、表示位置が左右にずれる場合があります。この場合は、ディスプレイの設定機能を使用して正しい位置に表示されるよう調整してください。
- ▶ お使いのディスプレイによっては、表示できない解像度があります。

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックし、「画面」アイコンをダブルクリックします。

「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

2 「設定」タブをクリックします。

設定項目が表示されます。

3 解像度、色数などを設定し、「OK」をクリックします。

「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

4 「新しいデスクトップ設定を適用します。」と表示されたら「OK」をクリックします。

5 画面が正しく表示され、「デスクトップのサイズを変更しました。この設定を保存しますか？」が表示されたら、15秒以内に「はい」をクリックします。不具合があった場合は「いいえ」をクリックします。

POINT

- ▶ 「いいえ」をクリックした場合は、次に表示されるダイアログボックスで「OK」をクリックし、手順3に戻り再度解像度などを選択します。

設定が有効になります。

補足情報

「画面のプロパティ」ダイアログボックス内には各ディスプレイアダプタごとに特有の設定項目がある場合があります。これらの設定項目については、各ディスプレイアダプタのプロパティ画面内のヘルプを参照してください。通常は初期設定値でご使用ください。

3 Power Management for Windows

Power Management for Windows (PMAN) は、本ワークステーションの電源を制御するソフトウェアです。本ソフトウェアでは、「スケジュールによる電源の ON/OFF (自動シャットダウン)」、「LAN 経由によるリモート電源 ON/OFF」、「イベント連携」の機能を使用できます。

PMAN はご購入時にインストールされていません。必要に応じてインストールしてください (→ P.42)。

PMAN の機能

本ワークステーションで使用できる機能は、以下のとおりです。

● スケジュール機能

カレンダースケジュールにより、ワークステーション電源の自動運転ができます。週間スケジュールの他、祝日、長期休暇などの特定日のスケジュールも可能です。スケジュールの設定は、「動作設定」を使用してください。

● リモート電源制御機能

本ワークステーションに搭載されている Wake on LAN 機能と連携し、ネットワーク上の他のワークステーションから LAN 経由で本ワークステーションの電源投入/切断 (自動シャットダウン含む) を行うことができます。グループ指定 (運用単位) により複数のワークステーションを一括して電源投入/切断することも可能です。

本機能を使用する場合は、別売の「Power Management for Windows (コンソール)」が必要です。設定を行う場合は、「Power Management for Windows (コンソール)」(別売)の「運用設定」を使用してください。

● イベント連携機能

通常起動時、通常終了時 (シャットダウン時) のイベントごとにユーザープロセス (プログラム、コマンドなど) を指定できます。イベント発生とアプリケーションを連携させることが可能です。たとえば、通常停止 (電源切断) のイベント発生時にファイルの退避を行うといったようなアプリケーションの実行も可能です。イベントの設定は、「動作設定」を使用してください。

POINT

- ▶ 本ソフトウェアを使用する場合、休止状態およびスタンバイ機能は使用しないでください。
- ▶ 「コントロールパネル」ウィンドウ「電源の管理」－「詳細タブ」－「電源ボタン」の設定が優先されるため、「電源スイッチによる自動シャットダウン機能」は使用できません。
- ▶ シャットダウンについて
本ソフトウェアでは、ワークステーションの強制シャットダウンは行いません。このため、シャットダウン時にアプリケーションの終了を確認してくるプログラムがある場合は、終了の確認画面が表示された状態でキー入力待ち状態になります。

- ▶ DHCP について（リモート電源制御機能使用時のみ）
本ソフトウェアは、DHCP プロトコルに対応していません。必ず、固定 IP アドレスを使用してください。
- ▶ スクリーンセーバーについて
本ソフトウェアを使用する場合、スクリーンセーバー名に「OpenGL」の表記があるスクリーンセーバーは使用しないでください。

第3章

リカバリとインストール

本ワークステーションを新規でOSをインストールした状態にする「リカバリ」とソフトウェアの「インストール」について説明しています。

1	リカバリ概要	26
2	リカバリ操作	27
3	ソフトウェアのインストール	30

1 リカバリ概要

Windows が起動されないなどの問題が発生した場合は、リカバリを行います。

リカバリの概要

リカバリとは、「CELSIUS 用 Windows 2000 リカバリ CD」を使用して、OS を新規にインストールした状態に戻す操作です。リカバリ後、適応したドライバのインストールを個別に行う必要があります。

留意事項

- 本書を参照して、ドライバのインストールを行ってください。
- オプションを取り付けている場合は、それらをいったん取り外し、ご購入時の状態に戻してください。
- 本ワークステーションには、冊子「Windows 2000 Professional ファーストステップガイド」は添付されておられません。Windows 2000 ヘルプの中に入っているオンライン版「Windows 2000 Professional ファーストステップガイド」をご覧ください。

オンライン版「Windows 2000 Professional ファーストステップガイド」には、Windows 2000 のインストール手順など、リカバリ時に必要な情報が記載されていますので、必ずお読みください。

また、後ほど参照するためにドキュメント内容を印刷しておくことをお勧めします。

オンライン版「Windows 2000 Professional ファーストステップガイド」の表示方法

- 1 Windows 2000 ヘルプを表示します。
- 2 「目次」タブをクリックします。
- 3 「Windows 2000 Professional の紹介」をクリックします。
- 4 「ファースト ステップ ガイド オンラインブック」をクリックします。
- 5 「ファースト ステップ ガイド オンラインブック」が表示されますので、「『Windows 2000 Professional ファーストステップガイド』を開きます。」をクリックします。

2 リカバリ操作

本ワークステーションを新規で OS をインストールした状態にする「リカバリ」の方法を説明します。

POINT

- ▶ リカバリに関する留意事項(→ P.26)をよくお読みのうえ、リカバリを行ってください。

リカバリ前の準備

リカバリを実行する前に、次の操作を行ってください。

BIOS 設定について

BIOS の設定をご購入時の設定に戻します (→『ハードウェアガイド』参照)。

POINT

- ▶ BIOS セットアップの設定をご購入時と異なる設定にしていると、インストール時にエラーメッセージが表示されることがあります。

リカバリ方法

POINT

- ▶ メモリを増設した環境で再インストールを行うと、総メモリ容量によっては「構成情報を保存しています」と表示されたあと、インストールが止まってしまう場合があります。その場合は、メモリの構成容量を変更して再インストールを行い、その後メモリを増設してください。

用意するもの

- 「CELSIUS 用 Windows 2000 リカバリ CD」
- 「QLogic 64bit U160 Onboard SCSI V7.14」(「[ドライバのバックアップ](#)」(→ P.13) で作成したもの)
- プロダクトキー (ワークステーション本体側面に貼付のシールに記載されているもの)
- 『Windows 2000 Professional クイックスタートガイド』

インストール方法について

Windows 2000 のインストールは、『Windows 2000 Professional クイックスタートガイド』を参照して行ってください。

なお、カスタムメイドオプションで SCSI ハードディスクドライブを搭載時は、インストールの途中で SCSI ドライバのインストールを行ってください。

- 1** リカバリ CD をセットします。
- 2** 本ワークステーションを再起動します。
- 3** 「Press any key to boot from CD...」と表示されている間に、【Enter】キーを押します。
リカバリが始まりますので、メッセージに従って操作を続けます。
- 4** (カスタムメイドオプションで SCSI ハードディスクドライブを搭載時) 次項「SCSI ドライバのインストール」の手順 1 に進んで、SCSI ドライバのインストールを行います。
- 5** リカバリが終了したら、リカバリ CD を取り出してから本ワークステーションを再起動します。
「地域」が表示されます。
- 6** 内容を確認してから、「次へ」をクリックします。
- 7** 「**セットアップ**」(→P.8) の手順 4 に進みます。

SCSI ドライバのインストール (カスタムメイドオプションで SCSI ハードディスクドライブを搭載時)

- 1** リカバリ CD を起動した直後、画面下に「Press F6 if you need to install a third party SCSI or RAID driver...」と表示されたらすぐに、【F6】キーを押します。
ドライバファイルの読み込みが終了すると、画面下に「S=Specify Additional Device ENTER=Continue F3=Exit」と表示されます。
- 2** 【S】キーを押します。
画面下に「ENTER=Continue ESC=Cancel F3=Exit」と表示されます。
- 3** 「QLogic 64bit U160 Onboard SCSI V7.14」をフロッピーディスクドライブにセットし、【Enter】キーを押します。
- 4** 「QLogic QLA12160, 64 bit PCI DUAL 160M SCSI HBA」が選択されているのを確認し、【Enter】キーを押します。
ドライバの読み込みが終わると、手順 1 の画面に戻ります。

5 【Enter】キーを押します。

メッセージに従って操作を続けます。

6 「Iwill Software Diskette のフロッピーディスク」を要求されたら、「QLogic 64bit U160 Onboard SCSI V7.14」をフロッピーディスクドライブにセットし、【Enter】キーを押します。

メッセージに従って操作を続けます。

SCSI ドライバのインストールが完了したら、メッセージに従ってリカバリを続け、前項「インストール方法について」の手順5に戻ります。

リカバリ終了後

- 添付の「Windows 2000 Service Pack2」の CD-ROM を使用して、Windows 2000 Service Pack2 をインストールしてください。
- セットアップ後、必要に応じてドライバのインストール (→ P.30)、プレインストールソフトのインストール (→ P.39)、添付ソフトのインストール (→ P.41) を行ってください。

3 ソフトウェアのインストール

ドライバおよびアプリケーションのインストール方法を説明します。

重要

- ▶ 必要なドライバやアプリケーションをインストールしたら、Windows 2000 Service Pack2 を必ずインストールしてください (→ P.38)。

ドライバのインストール

ドライバのインストールは、それぞれのドライバのインストール手順をご覧ください。
インストール手順は次の表の場所にあります。

分類	ドライバ	インストール手順の保存場所と ファイル名
チップセット ドライバ	Intel Chipset Software Installation Utility	「チップセットドライバのインストール」 (→ P.31)
SCSI ドライバ	QLogic 64bit U160 SCSI Driver	「SCSI ドライバのインストール」 (→ P.32)
ディスプレイ ドライバ	Matrox Millennium G450 Driver	「ディスプレイドライバのインストール (Matrox Millennium G450 Driver の場 合)」 (→ P.33)
	CELSIUS Wildcat II 5110 Driver	「ディスプレイドライバのインストール (CELSIUS Wildcat II 5110 Driver の場 合)」 (→ P.34)
	CELSIUS GL2 Driver	「ディスプレイドライバのインストール (CELSIUS GL2 Driver の場合)」 (→ P.33)
サウンドドライバ	AD1881A Audio Driver	「サウンドドライバのインストール」 (→ P.35)
LAN ドライバ	Intel PRO/100 LAN Driver	「LAN ドライバのインストール (Intel PRO/100 LAN Driver の場合)」 (→ P.36)
	3Com Fast-EtherLink XL 3C905CX-TXM WoL Driver	「LAN ドライバのインストール (3Com Fast-EtherLink XL 3C905C-TX WoL Driver の場合)」 (→ P.36)

この表以外のドライバについては、「ドライバーズ CD」内の「IndexCD.htm」で該当するドライバのフォルダ名称を確認し、フォルダ内の Readme.txt または Install.txt をご覧ください。

POINT

- ▶ IDE モデルをご購入され、SCSI ハードディスクを増設してご使用になる場合は、「[SCSI ドライバのインストール](#)」(→ P.32) に従って、SCSI ドライバのインストールを行ってください。
- ▶ オプションで FastEthernet カードをご使用になる場合は、「[LAN ドライバのインストール \(3Com Fast-EtherLink XL 3C905C-TX WoL Driver の場合\)](#)」(→ P.36) に従って、LAN ドライバのインストールを行ってください。

チップセットドライバのインストール

POINT

- ▶ リカバリを行ったあとは、必ず最初にチップセットドライバをインストールしてください。
最初にチップセットドライバをインストールしないと、正常に動作しない場合があります。

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバズ CD」をセットします。
- 3** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROMドライブ]:¥2k¥IntellInf¥infinst_autol.exe
セットアップが始まります。
- 5** 「用の InstallShield ウィザードへようこそ」ダイアログボックスが表示されたら、「次へ」をクリックします。
「使用許諾契約」ダイアログボックスが表示されます。
- 6** 「はい」をクリックします。
「Readme 情報」ダイアログボックスが表示されます。
- 7** 「次へ」をクリックします。
インストールが始まります。
- 8** 「InstallShield ウィザードの完了」が表示されたら、「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」が選択されているのを確認し、CD-ROM を取り出してから「完了」をクリックします。
本ワークステーションが再起動されます。

SCSI ドライバのインストール

POINT

- ▶ SCSIハードディスクを増設してご使用になる場合は、SCSIドライバをインストールする必要があります。

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバズ CD」をセットします。
- 3** 「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 4** 「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 5** 「その他のデバイス」→「SCSIコントローラ」の順にクリックします。
「SCSIコントローラのプロパティ」が表示されます。
- 6** 「全般」タブの「ドライバの再インストール」をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ダイアログボックスが表示されます。
- 7** 「次へ」をクリックします。
- 8** 「ハードウェアデバイスドライバのインストール」で「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 9** 「ドライバファイルの特定」で「CD-ROM ドライブ」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 10** 「ドライバの検索」で「次へ」をクリックします。
- 11** 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」が表示されたら、「完了」をクリックします。
- 12** 「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。
本ワークステーションが再起動されます。

ディスプレイドライバのインストール (Matrox Millennium G450 Driver の場合)

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」ダイアログボックスが表示されることがありますが、この場合は「キャンセル」をクリックしてください。
- 2 「ドライバズ CD」をセットします。
- 3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
「名前」に次のように入力して「OK」をクリックします。
[CD-ROMドライブ]: ¥W2k¥G450¥Setup.exe
「Matrox PowerDesk セットアップ」ダイアログボックスが表示されます。
- 4 「Japanese」を選択して、「次へ」をクリックします。
- 5 「Matrox Millennium G450 Dual Head」を選択して「次へ」をクリックします。
- 6 設定内容の確認後、「次へ」をクリックします。
ファイルのコピーが開始されます。
- 7 「終了しました。」と表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 8 「変更内容を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。」というメッセージが表示されたら、CD-ROM を CD-ROM ドライブから取り出し「完了」をクリックします。このとき、セットアップが完了するまで、しばらくの間マウスのボタンをクリックしないでください。
本ワークステーションが再起動されます。再起動後、管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 9 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックし、コントロールパネルの中の「画面」アイコンをダブルクリックしてください。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。「設定」タブで、ご希望の解像度/色数を設定してください。

ディスプレイドライバのインストール (CELSIUS GL2 Driver の場合)

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2 「ドライバズ CD」をセットします。
- 3 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」を選択します。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 4 「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックします。

- 5** 「その他のデバイス」→「ビデオコントローラ (VGA 互換)」の順にダブルクリックします。
「ビデオコントローラ (VGA 互換) のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 6** 「ドライバの再インストール」をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ダイアログボックスが表示されます。
- 7** 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」で「次へ」をクリックします。
- 8** 「ハードウェアデバイスドライバのインストール」で「デバイスに最適なドライバを検索する (推奨)」を選択して、「次へ」をクリックします。
- 9** 「ドライバファイルの特定」で「CD-ROM ドライブ」を選択して、「次へ」をクリックします。
ドライバファイルの検索が開始されます。
- 10** 「ドライバファイルの検索」で「次へ」をクリックします。
ファイルのコピーが始まります。
- 11** 「デバイスドライバのアップグレード ウィザードの完了」が表示されたら「完了」をクリックします。
- 12** CD-ROM を取り出してから、「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、本ワークステーションを再起動します。
再起動後、管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 13** 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックし、「画面」アイコンをダブルクリックします。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「設定」タブで、ご希望の解像度/色数を設定してください。

ディスプレイドライバのインストール (CELSIUS Wildcat II 5110 Driver の場合)

CELSIUS Wildcat II 5110 Driver の場合は、VGA ドライバとビデオコントローラドライバの2種類のドライバを別々にインストールする必要があります。以下に手順を示します。

■ VGA ドライバのインストール

初めに、VGA ドライバをインストールします。

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバーズ CD」をセットします。

3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

4 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥W2k¥WC5110¥setup.exe

VGA ドライバのインストールが始まります。

「Wildcat ディスプレイドライバのインストール」ダイアログボックスが消えたら、インストールは完了です。

■ **ビデオコントローラドライバ (CELSIUS Wildcat II 5110 Driver) のインストール**
 続いて、ビデオコントローラドライバをインストールします。

1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

2 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥W2k¥WC5110¥setup.exe

ビデオコントローラドライバのインストールが始まります。

「Wildcat ディスプレイドライバのインストール」ダイアログボックスが消え、しばらくの間黒い画面が表示されたあと、元の画面に戻ります。

3 CD-ROM を取り出してから、「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、本ワークステーションを再起動します。

サウンドドライバのインストール

1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

2 「ドライバズ CD」をセットします。

3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

4 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥W2k¥AD188x¥setup.exe

「SoundMAX Install 用の InstallShield ウィザードへようこそ」が表示されます。

5 「次へ」をクリックします。

インストールが始まります。

6 「InstallShield ウィザードの完了」が表示されたら、「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」が選択されているのを確認し、CD-ROM を取り出してから「完了」をクリックします。

本ワークステーションが再起動されます。

LAN ドライバのインストール (Intel PRO/100 LAN Driver の場合)

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3** 「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 4** 「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 5** 「その他のデバイス」→「イーサネットコントローラ」の順にダブルクリックします。
「イーサネットコントローラのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 6** 「ドライバの再インストール」をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ダイアログボックスが表示されます。
- 7** 「次へ」をクリックします。
- 8** 「ハードウェア デバイス ドライバのインストール」で「デバイスに最適なドライバを検索する (推奨)」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 9** 「ドライバファイルの特定」で「CD-ROM ドライブ」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 10** 「ドライバファイルの検索」で「次へ」をクリックします。
インストールが始まります。
- 11** 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」が表示されたら、「完了」をクリックします。
- 12** CD-ROM を取り出してから、「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、本ワークステーションを再起動します。

LAN ドライバのインストール (3Com Fast-EtherLink XL 3C905C-TX WoL Driver の場合)

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3** 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

- 4 「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 5 「ネットワークアダプタ」→「3Com EtherLink...」の順にダブルクリックします。
「3Com EtherLink...のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 6 「ドライバ」タブの「ドライバの更新」をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ダイアログボックスが表示されます。
- 7 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」で「次へ」をクリックします。
- 8 「ハードウェアデバイスドライバのインストール」で「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 9 「ドライバファイルの特定」で「CD-ROM ドライブ」を選択して、「次へ」をクリックします。
ドライバファイルの検索が開始されます。
- 10 「別のドライバを1つインストールする」を選択し、「次へ」をクリックします。
「検出されたドライバファイル」が表示されます。
- 11 「3Com EtherLink 10/100 PCI For Complete PC Management NIC(3C905C-TX)」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 12 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」が表示されたら「完了」をクリックします。
- 13 CD-ROM を取り出してから、「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、本ワークステーションを再起動します。
本ワークステーションが再起動され、LAN 機能が使用できるようになります。

光磁気ディスク・ユーティリティのインストール

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2 「ドライバズ CD」をセットします。
- 3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROM ドライブ]: ¥W2k¥Moforformat¥MOFORMAT. MSI

このあとは、メッセージに従って操作します。

Windows 2000 Service Pack2 のインストール

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
C:\support\sp\w2ksp2.exe
- 4 「使用許諾」を読み、「同意する」をクリックし、「インストール」をクリックします。

このあとは、メッセージに従ってインストールを完了してください。

また、添付の「Windows 2000 Service Pack2」の CD-ROM を使用して、インストールを行うことができます。

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2 「Windows NT Service Pack 2」を CD-ROM ドライブにセットします。
Internet Explorer が起動され、「Windows 2000 Service Pack2」の説明が表示されます。
- 3 「Service Pack 2 をインストール」をクリックします。
「Service Pack 2 のインストール」が表示されます。
- 4 「Service Pack 2 のインストール (Intel 版)」をクリックします。
インターネットエクスプローラの確認ダイアログが表示されます。
- 5 「開く」を選択して、「OK」をクリックします。
セキュリティ警告ダイアログ表示されます。
- 6 「はい」をクリックします。

POINT

- ▶ Windows 2000 のバージョン情報は、次の手順で見ることができます。
 - 1 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
 - 2 「ヘルプ」メニュー→「バージョン情報」の順にクリックします。

プレインストールソフトのインストール

ここでは、ご購入時にインストールされているソフトウェアのインストール方法について記述しています。

Windows 環境調査ツール (FM Advisor) のインストール

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ]: ¥W2k¥FmAdv¥Setup. exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

Acrobat Reader のインストール

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
 - 2 「ドライバーズ CD」をセットします。
 - 3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
 - 4 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
- [CD-ROM ドライブ]: ¥W2k¥Ac¥ar500. jpn. exe
- 5 「次へ」を2回クリックします。
 - 6 「情報」で「OK」をクリックします。
 - 7 CD-ROM を取り出してから、本ワークステーションを再起動します。

DirectX8.0a のインストール

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4 「名前」に次のように入力して、「OK」をクリックします。
[CD-ROMドライブ]:¥w2k¥dx8¥dx80ntopk.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

CodeRed ワーム対応修正モジュールのインストール

POINT

- ▶ CodeRed ワーム対応修正モジュールをインストールする前に、Windows 2000 Service Pack2 をインストールする必要があります。

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4 「名前」に次のように入力して、「OK」をクリックします。
[CD-ROMドライブ]:¥w2k¥qfe¥q300972_w2k_sp3_x86_ja.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

添付ソフトのインストール

VirusScan のインストール

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2 「ドライバズ CD」をセットします。
- 3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ]: ¥W2k¥Vstnt¥Setup. exe

インストールが始まります。次のポイントを参照し、メッセージに従って操作してください。

POINT

- ▶ 「サービスアカウント情報」ダイアログボックスでは、Administrators グループの「ユーザー名」とその「パスワード」を入力してください。

FM-Menu のインストール

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2 「ドライバズ CD」をセットします。
- 3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ]: ¥W2k¥FMMenu¥Setup. exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

はじめよう！インターネット (@nifty) のインストール

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2 「ドライバズ CD」をセットします。
- 3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ]: ¥W2k¥NIFTYSGN¥Setup. exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

PMAN のインストール

POINT

- ▶ リモート電源制御機能を使用する場合は、インストール時にあらかじめIPアドレス、サブネットマスクの設定、TCP/IP プロトコルおよび NetBEUI のインストールが必要です。また、使用時には「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」でお使いのLANドライバのプロパティを表示し、「電源の管理」タブで「電源の節約のために、コンピュータでデバイスの電源をオフにできるようにする」をチェックしてください。
- ▶ PMANの詳細については、「[Power MANagement for Windows](#)」(→ P.23)をご覧ください。

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「ドライバズ CD」をセットします。
- 3** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4** 「名前」に次のように入力して、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]: ¥W2k¥Pman¥PMANSUB¥Setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

第4章

困ったときに

4

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

- 1 こんなときには 44
- 2 それでも解決できないときは 50

1 こんなときには

ここでは、Windows 2000 の使用時に直面する問題について、Q&A 形式でまとめています。また、トラブルが発生したときや困ったときの参照先を説明しています。

トラブル発生時の参照先

Windows 2000 に関して

添付の Windows 2000 のマニュアルか、「スタート」メニューに登録されているオンラインヘルプをご覧ください。

ハードウェアに関して

『ハードウェアガイド』をご覧ください。

トラブルシューティング

Q プログラムが動かなくなりました

A 1 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キーを押します。

「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示されます。

2 「タスクマネージャ」をクリックします。

「Windows タスクマネージャ」ダイアログボックスが表示されます。

3 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」をクリックします。
プログラムが強制終了されます。

「Windows タスクマネージャ」ダイアログボックスを閉じます。

POINT

- ▶ プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ プログラムを強制終了した場合は、次の手順でディスクをチェックすることをお勧めします。
 - 1 実行中のプログラムをすべて終了します。
 - 2 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
 - 3 プログラムをインストールしてあるディスクを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 - 4 「ツール」タブをクリックし、「エラーチェック」の「チェックする」をクリックします。
 - 5 「チェックディスクのオプション」内の項目をチェックし、「開始」をクリックします。「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」をチェックし、C ドライブを検査する場合は、「次回のシステム再起動時に、このディスクの検査をスケジュールしますか？」と表示されます。「はい」をクリックすると、次回 Windows 2000 起動時にエラーのチェックが行われます。それ以外の場合は、ディスクのチェックが開始されます。終了すると「ディスクの検査が完了しました。」と表示されます。
 - 6 「OK」をクリックします。

Q マウスが使えないため、Windows 2000 を終了できない

A キーボードを使って Windows 2000 を終了できます。

1 【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。

「スタート」メニューが表示されます。

2 【↑】【↓】キーで「シャットダウン」を選択し、【Enter】キーを押します。

「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。

3 【↑】【↓】キーで「シャットダウン」を選択し、【Enter】キーを押します。

Windows 2000 が終了します。

マウスが故障している場合は、担当営業員または担当保守員まで連絡してください。

Q ディスプレイドライバ、サウンドドライバ、LAN ドライバが正しく動作しない

A1 Windows 2000 が起動されないときは、Safe モードで起動してから、ドライバをインストールしてください。

手順は次のとおりです。

1 本ワークステーションの電源を入れます。

2 「Windows を起動しています ...」と表示されたら、【F8】キーを押します。

「Windows 2000 拡張オプションメニュー」が表示されます。

3 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。

「オペレーティングシステムの選択」が表示されます。

4 「Microsoft Windows 2000 Professional」を選択し、【Enter】キーを押します。

5 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

「Windows はセーフモードで実行されています。」と表示されます。

6 「OK」をクリックします。

A2 各ドライバをインストールし直す必要があります。

お使いの機種に対応する各ドライバは、「[ドライブ構成](#)」(→ P.16) でご確認ください。
インストール方法については、「[ドライブのインストール](#)」(→ P.30) をご覧ください。

Q リカバリ後に CD-ROM のドライブレターが消えた

A1 ドライブレターを割り当て直してください。

手順は次のとおりです。

1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

2 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

3 「管理ツール」→「コンピュータの管理」アイコンの順にダブルクリックします。

4 「コンピュータの管理」ダイアログの「ツリー」から「記憶域」→「ディスク管理」の順にクリックします。

5 「CDROM0」を右クリックして、「ドライブ文字とパスの変更」メニューを選択します。

6 「追加」ボタンをクリックして、「ドライブ文字の割り当て」で割り当てるドライブレターを選択します。

※出荷時の設定は E: になっています。

Q アプリケーションのインストールが正常に行われない

A ウイルス検索ソフトを起動している場合、その影響が考えられます。

ウイルス検索ソフトを終了させ、アプリケーションのインストールができるか試してください。

ウイルス検索ソフトを終了させてもインストールが正常に行われないときは、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。

Q オンラインヘルプやエラーメッセージの対処方法を参照しても原因がわからない

A 本ワークステーションでは、次の診断アプリケーションを用意しています。

FM Advisor

FM Advisor の使用方法は、次のとおりです。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「FM Advisor」→「FM Advisor」の順にクリックします。

調査結果が表示されます。

 **POINT**

- ▶ 起動中のアプリケーションや常駐プログラムはすべて終了してください。
- ▶ スクリーンセーバーは「なし」に設定してください。

Windows 2000 に関する Q&A

- Q** 光磁気ディスクドライブをスーパーフロッピー形式で使用するには？
- A** 光磁気ディスクドライブの設定は必要ありません。光磁気ディスクをスーパーフロッピー形式でフォーマットするには、「光磁気ディスク・ユーティリティ」を使用してください。
- なお、光磁気ディスク・ユーティリティの使用方法については、「ドライバーズ CD」の「¥W2k¥Moformat¥Readme.txt」をご覧ください。
- Q** キーボードの NumLock がオンの状態で、Windows 2000 を起動する方法は？
- A** Windows 2000 上で【NumLock】キーを押し、NumLock をオンにします。次回起動時からは、NumLock がオンの状態で Windows 2000 が起動されます。
- Q** Windows95 や MS-DOS のように、ワークステーション同士をシリアルケーブルで接続してデータのやりとりができますか？
- A** RAS (Remote Access Service) の機能を使うことによって、シリアルケーブル接続でのデータのやりとりが可能です。
- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
 - 2 「コントロールパネル」ウィンドウの「電話とモデムのオプション」アイコンをダブルクリックします。
 - 3 所在地情報を入力するダイアログボックスが表示された場合は、所在地の設定を行い「OK」をクリックします。
「電話とモデムのオプション」ダイアログボックスが表示されます。
 - 4 「モデム」タブをクリックし、「追加」をクリックします。
「ハードウェアの追加と削除」ダイアログボックスが表示されます。
 - 5 「モデムを一覧から選択するので検出しない」をチェックし、「次へ」をクリックします。
 - 6 「製造元」から「(標準モデムの種類)」を、「モデル」から「2 台のコンピュータ間の通信ケーブル」を選択し、「次へ」をクリックします。
 - 7 「選択したポート」をクリックし、表示されている COMn (n には数字が表示されています) をクリックして、「次へ」をクリックします。
 - 8 「完了」をクリックします。
 - 9 「電話とモデムのオプション」ダイアログボックスで「OK」をクリックします。
- Q** ログオン時のパスワードに、大文字、小文字の区別はありますか？
- A** あります。

Q 自動ログオン（パスワード入力なしでログオンすること）の設定方法は？

A Windows 2000 セットアップ時に「ユーザーはこのコンピュータを使用するとき、ユーザー名とパスワードを入力する必要がある」を選択した場合は、ログオン時に「Windowsへログオン」ダイアログボックスが表示され、パスワードの入力を求められます。次の手順で自動ログオンが可能になります。なお、自動ログオンは、本ワークステーションがネットワーク上にないか、ドメインのないネットワークに接続している場合に設定できます。

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2 「コントロールパネル」ウィンドウの「ユーザーとパスワード」アイコンをダブルクリックします。
「ユーザーとパスワード」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 自動ログオンするユーザー名をクリックし、「このコンピュータを使うには、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります」のチェックを外します。
- 4 「OK」をクリックします。
「自動ログオン」ダイアログボックスが表示されます。
- 5 「パスワード」と「パスワードの確認入力」にパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

POINT

- ▶ 自動ログオン機能を使用した場合、正規ユーザー以外が本ワークステーションを使用したり、ネットワークにログインしたりすることが可能になります。セキュリティ上の問題が発生する場合、自動ログオン機能を使用しないでください。
- ▶ ネットワーク環境で自動ログオン機能を使用する場合、起動時にサーバーに接続できない場合があります。この場合は、サーバーへの再接続を行ってください。

Q Windows NTのように【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押してからログオンするには？

A 次の手順で設定してください。

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2 「コントロールパネル」ウィンドウの「ユーザーとパスワード」アイコンをダブルクリックします。
「ユーザーとパスワード」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 「詳細」タブをクリックします。
- 4 「ブート時のセキュリティ設定」の「ユーザーがログオンする前には必ず Ctrl+Alt+Del キーを押す」をチェックし、「OK」をクリックします。

POINT

- ▶ 自動ログオン機能を有効にしている場合は自動ログオン機能が優先されるため、電源を入れたときや再起動したときには、キー入力は求められません。スタンバイや休止状態からの復帰時にのみキー入力を求められます。

Q マウスポインタのデザインを変えるには？

A 「コントロールパネル」ウィンドウの「マウス」アイコンをダブルクリックし、「ポインタ」タブで設定してください。

- Q** ファイルシステムを NTFS に変換する方法は？
- A** ファイルシステムを NTFS に変換すると、セキュリティや信頼性を強化できます。変換方法は、次のとおりです。

POINT

- ▶ NTFS に変換した場合、Windows 2000、Windows NT 4.0 (Service Pack4 以降) 以外の OS からは、ファイルにアクセスできなくなります。
 - ▶ すでに作成されているショートカットから、アプリケーションが起動できなくなる場合があります。このときは、ショートカットを削除し、再度作成してください。
- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
 - 2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。
 - 3 次のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
convert n: /fs:ntfs /v
```

(n には、ファイルシステムを変換するドライブ名を指定します)
 - C ドライブを変換する場合は、次のメッセージが表示されます。

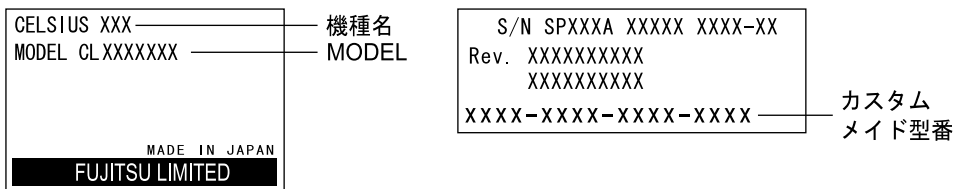
「ファイルシステムの種類は FAT です。
CONVERT で C: ドライブへの排他的アクセスを実行できないため、現時点では変換できません。次回のシステム再起動時にドライブの変換をスケジュールしますか (Y/N)?」
 - 4 【Y】キー押し、【Enter】キーを押します。
 - 5 「コマンドプロンプト」ウィンドウを閉じ、Windows 2000 を再起動します。
変換が行われます。このとき、Windows 2000 は 2 回再起動します。

2 それでも解決できないときは

下記の連絡先へお問い合わせください。なお、お問い合わせ前に機種名／MODEL／カスタムメイド型番を確認し、次のページのシートに環境とトラブル状況などを記入してください。

機種名／MODEL／カスタムメイド型番の表記場所

ワークステーション本体背面のラベルに記載されています。



連絡先

こんなときには	こちらへ
添付品の不備	担当営業員または担当保守員
故障かなと思われたとき	担当営業員または担当保守員
技術的なご質問・ご相談	担当営業員または担当保守員
本ワークステーションにインストールされているソフトウェアのお問い合わせ	本書の冒頭に記載されている「 お問い合わせ一覧 」(→ P.4)

情報サービス

また、次の方法で情報サービスを行っております。

富士通ワークステーション FAX サービス (カタログ、Q&A 情報)	043-299-3642 (千葉) 06-6949-3270 (大阪)
インターネット (製品の技術情報)	富士通オープンシステム情報ページ PRIMESERVER GRANPOWER WORLD http://primeserver.fujitsu.com/

お問い合わせ前の確認シート

お使いの ワークステーション の機種は？	機種名：CELSIUS	MODEL：
	カスタムメイド型番：	
	購入日：	

メモリの容量は？	本体標準： MB	
	増設： MB	[メーカー：] [型番：]

増設した 周辺機器は？	種類	型番号	メーカー

お使いの ソフトウェアは？	ソフトウェア名	バージョン／レベル	メーカー
	Windows 2000 Professional	5.00.2195 (Service Pack)	—

トラブル状況

トラブルの内容は？	
何をしているときに 起こりましたか？	
エラーメッセージは 表示されましたか？ その内容は？	
以前は問題なく 動作していましたか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以前は動作した ・ 今回初めて試した ・ 以前から動作しない

Memo

第 5 章

技術情報

お使いになるうえでの留意事項を説明しています。

1	その他の留意事項	54
---	----------------	----

1 その他の留意事項

本ワークステーションをお使いになるうえでの留意事項を記載しています。

Windows 2000 の CD-ROM を要求された場合

ドライバのインストール時などに、「Windows 2000」の CD-ROM を要求される場合があります。このときは、「c:\support\i386」（またはリカバリ CD-ROM）を指定してください。

本ワークステーションで使用するソフトウェア

古いバージョン／レベルのソフトウェア（アプリケーション、ドライバ）を使用すると、本ワークステーションおよびソフトウェアが正常に動作しない場合があります。本ワークステーションに添付されているソフトウェアは、添付されているバージョンを使用するか、その最新版を入手して使用してください。

また、本ワークステーションに添付されていないソフトウェアの場合も、最新版を使用してください。

Acrobat Reader について

市販のアプリケーションによっては、インストールの際に、Acrobat Reader を一緒にインストールするものがあります。このとき、本ワークステーションにプレインストールされている Acrobat Reader 5.0 よりも低いバージョンのものがインストールされてしまうことがあります。バージョンをご確認のうえ、Acrobat Reader 5.0 をインストールし直してください（→ P.39）。

ネットワーク運用時の省電力機能

ネットワーク環境下で省電力状態へ移行すると、お使いになるアプリケーションによっては、復旧後に不具合が発生する場合があります。

不具合が発生した場合は、本ワークステーションを再起動してください。

また、通信中は省電力状態へ移行させないでください。

Windows 2000 での Wake On LAN 機能

POINT

- ▶ Windows 2000 での Wake On LAN 機能は、スタンバイ状態や休止状態からの復帰に使用します。LAN 経由の電源 ON/OFF には PMAN (→ P.23) を使用してください。

ネットワーク環境下で Wake On LAN 機能を使用する場合は、次の設定を行ってください。

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 3** 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ダイアログボックスが表示されます。
- 4** 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。
- 5** 以下のアダプタを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「Intel(R) PRO/100 S Desktop Adapter」
- 6** 「電源の管理」タブをクリックします。
- 7** 以下の2つの項目をチェックし、「OK」をクリックします。
 - このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする
 - 電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする

Wake On LAN機能を使用すると、ネットワーク状態を最新の情報に更新するためにコンピュータが定期的アクティブになることがあります。そのため、不適切なときにコンピュータがアクティブになったりする可能性があります。そこで、省電力モードへの移行については、次の手順でタイマ値を設定することをお勧めします。

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「コントロールパネル」ウィンドウの「電源オプション」アイコンをダブルクリックします。
「電源オプションのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

- 3 「電源設定」タブの「システム スタンバイ」または「システム休止状態」を「20分後」以上に設定します。

POINT

- ▶ 設定値が20分より短いと、ワークステーション本体が省電力モードに移行していても他のコンピュータからの接続確認データを受信して、省電力モードから復帰してしまう場合があります。なるべく20分よりも長い値を設定してください。

ネットワーク使用時の留意事項

オプションの LAN カードを、2 枚以上使用したネットワーク運用は、本ワークステーションではサポートしておりません。

LAN の設定を変更する

次の場合、ご使用になる環境に合わせて設定を行ってください。

- 本ワークステーションをハブユニットに接続した時、ハブユニット側のリンクランプが点灯せず、ネットワークのサーバなどへ接続できない

■ ローカルアドレスを使用する

- 1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ダイアログボックスが表示されます。
- 4 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。
- 5 以下のアダプタを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「Intel(R) PRO/100 S Desktop Adapter」

6 「Advanced」タブをクリックします。

• スピードとデュプレックスの設定

本ワークステーションをハブユニットに接続したとき、ハブユニット側のリンクランプが点灯せず、ネットワークのサーバなどへ接続できない場合は、以下の設定を変更してください。

Link Speed & Duplex : 「プロパティ」の「Link Speed & Duplex」をクリックし、「値」から通信速度／通信方式を指定します。

100Mbps/Full Duplex … 100Mbps の速度で、「送信」「受信」に専用のラインを使用して同時に通信を行います。

100Mbps/Half Duplex … 100Mbps の速度で、「送信」「受信」別々に通信を行います。

10Mbps/Full Duplex … 10Mbps で通信を行い、「送信」「受信」に専用のラインを使用して同時に通信を行います。

10Mbps/Half Duplex … 10Mbps の速度で、「送信」「受信」別々に通信を行います。

Auto Detect … ハブユニットと通信を行い、「通信速度」「通信方式」を自動的に決定します。

POINT

▶ Full Duplexに設定する場合、ハブユニット側も Full Duplexに設定する必要があります。

• ローカルアドレスの設定

ローカルアドレスを使用する場合は、以下の設定を変更してください。

Locally Administered Address : 「プロパティ」の「Locally AdministeredAddress」をクリックし、「値」に「02」で始まる 16 進 12 桁を入力します。

グローバルアドレスに戻したい場合は、「Restore Default」ボタンをクリックします。なお、設定する値については、ネットワーク管理者に確認してください。

7 「OK」をクリックします。

8 すべてのダイアログボックスを閉じます。

ACPI モード

ご購入時、本ワークステーションは ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) モードに設定されています。APM (Advanced Power Management) モードなどへの変更はできません。ここでは、ACPI モードに関する留意事項を説明します。

■ オプションに関する注意

オプションが ACPI モードに対応している必要があります。ACPI モードに対応していないオプションを接続すると、オプションが使用できなくなる、またはスタンバイモードから復帰できなくなる場合があります。事前にオプションが ACPI モードに対応しているかどうかをオプションのメーカーに確認してください。

なお、最新ドライバに変更することで ACPI モードに対応できるオプションもあります。詳細はオプションのメーカーに確認してください。

■ 使用できない機能

● BIOS セットアップの省電力メニュー

BIOS セットアップの省電力メニューの設定は、一部を除いて無効となります。各設定の詳細は、『ハードウェアガイド』をご覧ください。

■ その他の注意

- ACPI の制御およびすべての PCI デバイスが、システムリソースの「IRQ9」を使用します。
- PCI 拡張カードを増設する場合は、その拡張カードおよびドライバが「IRQ シェアリング(割り込みの共有)」をサポートしている必要があります。増設する PCI カードが IRQ シェアリングをサポートしているかどうかは、各 PCI カードメーカーに確認してください。
- 次の状態でスタンバイ状態に移行させると、スタンバイ状態にならない／スタンバイ状態から復帰しない／復帰後に正常に動作しない／データが消失する問題が発生することがあります。
 - ・ Windows 2000 の起動中／シャットダウン処理中
 - ・ ファイルアクセス中（フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROM ドライブや光磁気ディスクドライブのアクセスランプが点灯中）
 - ・ 動画の再生中や音楽の録音、再生中
 - ・ モデムやネットワークの通信中
 - ・ マウスの操作中
 - ・ プリンタ印刷中
 - ・ ACPI モードに対応していないオプション（拡張カード、周辺機器）を増設している場合
- 「コントロールパネル」ウィンドウの「電源オプション」を次のように設定し、電源スイッチや「スタート」ボタン→「シャットダウン」→「スタンバイ」の順にクリックして強制的にスタンバイ状態にさせず、アイドル状態のときだけ移行させてください。
 - ・ 「詳細」タブの「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「電源オフ」に設定します（ご購入時設定済み）。これにより、電源スイッチを使った強制的なスタンバイ状態への移行を回避できます。
 - ・ 「電源設定」タブの「システムスタンバイ」で移行するまでのアイドル時間（たとえば「30分後」）を設定します。これにより、ファイルアクセス中や通信中などにスタンバイ状態への移行を回避できます。
- スタンバイ状態へ移行するときに、「デバイスのドライバが原因でスタンバイ状態に入れません。アプリケーションをすべて閉じてから、もう一度やり直してください。問題が解決しない場合は、そのドライバを更新することをお勧めします。」と警告ダイアログボックスが表示される場合があります。これは、プログラムが動作中でスタンバイに入れない状態を示します。スタンバイ状態へ移行させるためには、動作中のプログラムを終了させてください。

■ スタンバイ状態からの復帰条件

ACPI モードの標準 (ACPI S1) / 高度 (ACPI S3) のスタンバイ状態から、次の表で○になっている復帰要因で通常の状態に復帰させることができます。

復帰要因	ACPI モード標準 (ACPI S1)
電源スイッチ※1	○
PS/2 キーボード、PS/2 マウス	○※2
USB キーボード、USB マウス	○※2
時刻指定※3	○
LAN ※4	○
モデム着信 (Ring Indicator 信号) ※5	○
PCI 拡張カード (PME# 信号) ※6	○

※1: 「コントロールパネル」ウィンドウ「電源オプション」－「詳細」タブの「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「電源オフ」に設定した場合でも、電源スイッチを押すとスタンバイ状態から復帰します。

※2: 「デバイスマネージャ」の「キーボード」と「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の下にあるデバイスをダブルクリックし、「電源の管理」タブで「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」をチェックした場合

※3: 「タスク」を使用した場合

※4: 「デバイスマネージャ」－「ネットワークアダプタ」の LAN コントローラのプロパティの「電源の管理」タブの以下の項目をチェックする必要があります。

- ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」
- ・「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」

※5: 通信ソフトを起動し、着信待ち状態にしておく必要があります。

※6: PME# 信号をサポートした PCI 拡張カード (PCI Revision 2.2 規格に準拠) を搭載した場合

休止状態に関する留意事項

次の状態で休止状態に移行させると、休止状態にならない / 休止状態から復帰しない / 復帰後に正常に動作しない / データが消失するなどの問題が発生することがあります。

- Windows 2000 の起動中 / シャットダウン処理中
- ファイルアクセス中 (フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROM ドライブや光磁気ディスクドライブのアクセスランプが点灯中)
- 動画の再生中や音楽の録音、再生中
- モデムやネットワークの通信中
- マウスの操作中
- プリンタ印刷中
- 休止状態に対応していないオプション (拡張カード、周辺機器) を増設している場合

ディスプレイドライバ

- アプリケーションが正常に動作しない場合は、ディスプレイドライバをインストールし直してください。インストール方法については、「[ドライバのインストール](#)」(→ P.30)をご覧ください。
- お使いのアプリケーションによっては、正しく表示されない場合があります。この場合は、アプリケーションが Windows 2000 に対応しているか、メーカーにお問い合わせください。
- グラフィックの表示性能は、環境設定および使用するアプリケーションによって異なります。特に 3D グラフィックスを使用する場合は、大量のメモリを消費するため、性能が低下することがあります。
- 解像度を変更した場合、一部のアプリケーションでウィンドウが画面からはみ出すことがあります。この場合は、ウィンドウをドラッグして正しい位置に移動するか、解像度を元に戻してください。
- 動画を再生するときは、ディスプレイの省電力機能やシステムスタンバイおよびシステム休止状態の設定は行わないでください。
- アプリケーションをお使いのとき、アイコン表示やウィンドウの一部などが画面に残ったり、アプリケーションのウィンドウ内で再描画されずにゴミが残っているように見えたりする場合は、次の手順でウィンドウの再表示を行ってください。
 - 1 ウィンドウの右上の最小化ボタンをクリックし、アプリケーションを最小化します。
 - 2 タスクバーの最小化されたアプリケーションを右クリックし、「元のサイズに戻す」をクリックすると、再表示されます。
- 画面表示の開始時やディスプレイドライバのインストール時、表示モードが切り替わる時 (Windows 2000 の起動、終了画面やスタンバイ状態およびシステム休止状態から復帰するときなど)、一時的に画面が乱れたり横線が見えたりする場合がありますが、故障ではありません。あらかじめご了承ください。
- お使いのビデオカードによっては、画面のプロパティにおいて、一部文字化けがありますが、動作には支障はありません。
- OpenGL を使用したスクリーンセーバーが起動しているときには、スタンバイ状態およびシステム休止状態への移行はできません。

表示されるメモリサイズ

- 「システムのプロパティ」ダイアログボックスで表示されるメモリサイズは、搭載メモリサイズより若干少なく表示されます。

「コンポーネントサービス」の留意事項

「コンポーネントサービス」の「コンピュータ」はログオン後 10 分ほど経過してから開くようにしてください。

ログオン後すぐに「コントロールパネル」ウィンドウ「管理ツール」内の「コンポーネントサービス」を起動し、「コンソールルート」－「コンポーネントサービス」－「コンピュータ」を開こうとすると、まれにアプリケーションエラーが起きることがあります。このエラーが起これると、本ワークステーションの動作が不安定になります。

この場合は、本ワークステーションを再起動してください。再起動後は問題なくお使いになれます。

CD-ROM ドライブユニットの留意事項

「コンピュータの管理」で「記憶域」－「リムーバブル記憶域」－「物理的な場所」を表示した場合、CD-ROM ドライブユニットが1つしかないにもかかわらず2つ表示されることがあります。この場合は、赤い×印のついているドライブを選択し、「操作」メニュー→「削除」の順にクリックして削除してください。

ネットワーク識別ウィザードについて

LAN モデルでは、Windows 2000 セットアップ時にネットワーク識別ウィザードが自動的に起動されますが、このとき「戻る」をクリックしないでください。再設定が必要な場合は、設定終了後に該当箇所を修正してください。

省電力設定について

省電力設定は、ユーザー別に設定できます。このため、管理者権限を持ったユーザーでログオンした場合と他のユーザーでログオンした場合で設定が異なります。必要に応じ、「コントロールパネル」ウィンドウ「電源オプション」で設定してください。

Outlook Express のパスワードについて

管理者権限を持ったユーザーでログオン時に、インターネット接続ウィザード中に設定したメールのパスワードは、Outlook Express に反映されません。Outlook Express 起動後にメールのパスワードをもう一度設定してください。

Memo

索引

A

ACPI モード	57
Acrobat Reader	14
-のインストール	39

C

CodeRed ワーム対応修正モジュールの インストール	40
---------------------------------	----

D

DirectX8.0a	14
-のインストール	40
DMA の設定	16

F

FAT16	16
FAT32	16
FM Advisor	14, 46
FM-Menu	15
-のインストール	41

I

Internet Explorer 5.01	14
------------------------	----

L

LAN	
-の設定を変更する	56
LAN ドライバ	30
-のインストール	36

M

Microsoft IME 2000	14
MODEL	50

N

NTFS	16
-への変換	49
NumLock	47

P

Power MANagement for Windows (PMAN)	15, 23
-のインストール	42

Q

Q&A	47
-----	----

S

SCSI ドライバ	28, 30
-のインストール	28, 32

V

VGA ドライバ	34
-のインストール	34
VirusScan	15, 20
-のインストール	41

W

Wake On LAN 機能	55
Windows 2000	8, 14
- Service Pack2 のインストール	38
-セットアップ	8
-の CD-ROM	54
Windows 環境調査ツール (FM Advisor)	14
-のインストール	39

あ

アンインストール	17
お問い合わせ前の確認シート	51
オンラインマニュアルの参照	26

か

カスタムメイド型番	50
コンピュータウイルス	
-の被害届け	21
-を発見した場合	21

さ

サウンドドライバ.....	30
-のインストール.....	35
自動ログオン.....	48
情報サービス.....	50
シリアルケーブル接続.....	47

た

チップセットドライバ.....	30
-のインストール.....	31
ディスプレイドライバ.....	30
-のインストール.....	33
ドライバのバックアップ.....	13
ドライブ構成.....	16
トラブルシューティング.....	44

な

ネットワーク	
- ID の設定.....	12
-運用時の省電力機能.....	54
-コンポーネントのインストール..	11
-使用時の注意事項.....	56
-の設定.....	11

は

はじめよう！インターネット (@nifty).....	15
-のインストール.....	41
パスワード.....	47, 48
光磁気ディスク	
-ドライブをスーパーフロッピー形式 で使用する.....	47
光磁気ディスク・ユーティリティ..	14, 47
-のインストール.....	37
ビデオコントローラドライバ.....	34
-のインストール.....	35
ファイルシステム.....	16
プレインストール	
-仕様.....	14
-ソフト.....	14

ま

マウスポインタのデザインを変える...	48
マルチモニタ機能.....	23

ら

リカバリ.....	26
連絡先.....	50

Memo _____

使用許諾契約書

このたびは、富士通株式会社（以下弊社といいます）製品をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。

弊社では、本ワークステーションにインストール、もしくは添付されているソフトウェアのうち、弊社が取り扱うソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを条件とさせていただきます。

なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で本契約に同意していただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。

ただし、本ソフトウェアのうちの特定のソフトウェアに関する「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件

1 本ソフトウェアの使用および著作権

お客様は本ソフトウェアを、日本国内において同時に1台のコンピュータでのみ使用できます。

なお、お客様は本ワークステーションのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属します。

2 バックアップ

お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1式の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。

3 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み

本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合にはお客様はマニュアル等に記載されている要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。

4 複製

(1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。

本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。

ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。

(2) 前号「(1)」によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、お客様は本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。

5 第三者への譲渡

お客様が本ソフトウェアを第三者へ譲渡する場合には、お客様が保有する本ソフトウェアの複製物のすべてを破棄するか、本ソフトウェアとともに第三者に譲渡してください。

6 改造等

お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルを伴うリバースエンジニアリングを行うことはできません。

7 アフターサービス（保証の範囲）

(1) 弊社は、お客様が「ユーザー登録カード」を弊社宛にご返送いただいた場合に限り、本ワークステーションをご購入いただいた日から1年間、本ソフトウェアの改訂版（レベルアップ）に関する情報等をお知らせいたします。

(2) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して、弊社が必要と判断した情報を提供いたします。

また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合は、本ワークステーションをご購入いただいた日から1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。

(3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記(1)、(2)および(3)の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。

(4) 弊社は、前各号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。

本ソフトウェア製品の中には第三者のソフトウェア製品が含まれています。お客様の本ソフトウェア製品の使用開始については、お客様が弊社の「ご使用条件」に同意された時点とし、第三者のソフトウェア製品についても同時に使用開始とさせていただきます。

なお、第三者のソフトウェアについては、製品の中に特に記載された契約条件がある場合には、その契約条件にしたがい取り扱われるものとします。

CELSIUS 670

ソフトウェアガイド

Windows 2000

P3F1-1070-01

発行日 2001年10月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本はお取り替えいたします。

